

京のアジェンダ21フォーラム

平成17年度総会議案

日時：平成17年6月25日(土) 午後1時00分～
場所：京(みやこ)エコロジーセンター 1階 シアター

第1号議案	平成16年度事業報告について	1
第2号議案	平成16年度決算報告について	4
第3号議案	平成17年度活動方針及び事業計画案について	12
第4号議案	平成17年度予算案について	22
第5号議案	役員改選について	26

京のアジェンダ21フォーラム

京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム 2004（平成16）年度事業報告

巻頭言 「次のステップに向けて具体的な目標を掲げ、作業を始める時期にきている。」

京のアジェンダ21フォーラム代表 内藤 正明

フォーラム発足7年目、そろそろ一つの転換期に差し掛かっているという印象を強く感じています。時あたかも京都議定書が発効し、京都市地球温暖化対策条例も施行されました。これまでは、「何をやれば温暖化対策につながるのか」ということが分かりにくい中、できることからはじめようと様々な活動を行ってきました。しかし、「一度活動を見直し、次のステップに向けてきちんとしたシナリオを持った方がいいのでは」というご意見が多く寄せられており、私自身もそう思っております。その大きな理由は、議定書の発効、条例の施行と、足元の環境が大きく変わる中、世界では議定書を越えた動きが顕著になってきていると感じるからです。ヨーロッパでは二酸化炭素を6～10%どころか、50～70%を削減すると言ようになってきていますし、日本でも、6%さえ無理だと言っていた政府が、75%削減するとまで言い出し、環境省は80%削減の社会に向けた具体的なシナリオを書くと言っているようです。また東京都は「半減社会（東京ハーフプロジェクト）」というものを打ち出しております。これは技術や仕組みを導入することで、二酸化炭素排出量を半分にするというものです。京都もそろそろ、具体的な目標を掲げ、作業を始める時期にきていると思います。フォーラムはその実行部隊として、何をどうすればどれだけの効果になるのか、持続可能な社会にどうつながるのかという計画作りを行い、その動きと連動して個々の活動それぞれが、一翼をどういう形で担っているのか明らかにするべきであると考えます。そういった提案や意見があちこちから寄せられていることも踏まえて、新しい展開に向けての議論をしていきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。（平成17年度総会挨拶）



1 事業報告

(1) 今後のあり方についての検討

「京のアジェンダ21」を推進する組織として発足した当フォーラムも設立後7年が経ち、一定の成果をあげたものもあれば、これから更なる取組を進めなければならないものもあります。そこで、今一度、当フォーラムの目的、目標、本来の使命を確認し、新たな明確な目標を定め、フォーラムが担う役割と今後着実に取り組むことについて、常任幹事会、幹事会を中心に、1年間検討しました。

(2) 情報収集・提供

ア ニュースレター「あじえんだ」を発行

フォーラムの活動方針、活動報告や他地域の事例等を掲載している機関誌「あじえんだ」（季刊）第19号から第22号までを発行し、会員に送付するとともに、区役所等に設置するなど広く市民に配布しました。（各3,500部～4,000部）

イ 事務局通信「月刊あじえんだ」を発行

フォーラムの活動予定や会員の行事案内等を掲載している事務局通信「月刊あじえんだ」を毎月発行し、会員に送付しました。（約500部）
また、「あじえんだ」や「月刊あじえんだ」に同封して、会員の行事案内等を送付しました。

ウ ホームページを整備・運用

京のアジェンダ21の内容やフォーラムの活動予定等の情報を発信するホームページの整備を進めまし

た。

（URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>）

また、KES認証事業部のホームページに、認証取得事業所のリストやグリーン調達基準採用企業情報等を掲載しました。

（URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/>）

エ メールニュース・メーリングリストを運用・整備

広く会員以外の方にも情報を伝えるメールニュース「週刊あじえんだ」を発行し、ホームページからも登録できるようにしました。（28号発行）

また、ワーキンググループ（以下「WG」という）ごとのメーリングリストの運用を行いました。

オ パネル展示等

京都議定書発効記念行事（主催：環境省、京都府、京都市）等のイベントでパネル展示を行いました。また、9月1日～10月31日まで叡山電車「こもれび」車内にてポスター展示を行いました。また、京エコロジーセンターの2階展示コーナーにもえこまつりWGのリターナブルシステムの展示を行っています。

カ 平成15年度事業報告書を作成

平成15年度の活動状況等をまとめた報告書を作成し、配布しました。（ホームページにも掲載）

キ イベント情報の発行

フォーラム、京エコロジーセンター、京都市ごみ減量推進会議との三者連携により、フォーラム会員主

催等のイベント情報を掲載した『京都環境イベントカレンダー』を毎月発行し、会員に送付しました。

(3)WG活動

ア ライフスタイルWG

<コミュニティのアジェンダ21タスク>

- ・ 伏見区醍醐をモデル地域として実践活動を行い、地域グループと環境NPOとの連携のもと、6月に「醍醐環境フェスタ」を開催しました。

<省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーンタスク>

- ・ タスクのメンバーを中心に7月に「省エネラベル協議会」を立ち上げ、タスクから移行しました。

イ 企業活動WG・KES認証事業部

- ・ KES認証事業を推進し、平成16年度はステップ1が79社、ステップ2が39社、学校版が1校の計119件を新たに認証し、平成17年3月末までの認証登録数は439件となりました。
- ・ 昨年度作成したKESステップ1取得事業所向け環境報告書「かんきょうレポート」のひな形の普及活動をしました。
- ・ KES取得企業のネットワークによる任意組織「KES倶楽部」が開催する研修会や電子メール・FAXで毎月発行する「KES倶楽部通信」の作成に協力しました。
- ・ 他地域等の団体(6組織)に協力し、KES協働審査登録体制を構築しました。(認証登録数156件)

ウ エコツーリズムWG

- ・ 観光関連施設のエコロジー化の取組として、KES認証事業部と連携し、「環境にやさしい旅館・ホテル」試行事業を実施しました。

エ 環境にやさしい交通体系の創出WG

- ・ 「醍醐コミュニティバス」の利用促進支援を行いました。
- ・ 市街地の駐輪場利用促進を目的に、「まちなかを歩く日」開催にあわせ、都心部で1ヶ月間、交通社会実験事業を行いました。
- ・ 伏見工業高校・洛水高校の“自転車を活かすまちづくり”を中心テーマとした総合学習に講師派遣、調査協力等を行いました。
- ・ 次世代の公共交通機関の導入に向けて、「(京)次世代都市交通導入フォーラム」を(株)モチベートと共催しました。
- ・ 交通に関わる情報の共有等を目指し、フォーラムのホームページ内に「交通掲示板」を設置しました。
- ・ 東山交通社会実験や、嵐山等観光地交通対策に参画・協力しました。

オ エコミュージアムWG

- ・ 大原野森林公園森の案内所で展示するビデオとポスターの企画・作成を行いました。
- ・ 特定非営利活動法人森林再生支援センターが経済産業省のバイオマス等未活用エネルギー事業

調査補助事業で行った『多様な主体の協働による汎用性の高い小型ガス化システム導入事業化調査』に参画・協力し、大原野森林公園バイオマス事業化検討委員会の事務局を共同運営しました。

カ 食の循環WG

- ・ 家庭での生ごみ堆肥化のマニュアル「やってみませんか“生ごみ”からの堆肥づくり」を発行し、京路地などイベント等で頒布しました。
- ・ 小学校区レベル(葵、御室地域)での地域循環のモデルづくりを目指して社会実験を実施しました。
- ・ 同事業では、生ごみ分別回収の実践を実証し、その回収した生ごみを府立大学で堆肥にするだけでなく、同大学でそれを利用した農園づくりにも取り組みました。
- ・ 活動の報告会を行い、報告とともに京都内外で堆肥化に取り組む人の交流もはかりました。

キ えこまつりWG

- ・ 区民ふれあいまつりなど市内等10箇所でお祭り・イベントの環境対策の実施を支援しました。
- ・ 京エコロジーセンター社会実験支援事業として、えこまつりコーディネーター養成講座を開催しました。また、支援したお祭り・イベント主催者の代表を中心としたサポート体制検討委員会を発足し、お祭り・イベントでの環境対策のサポート体制の検討を行いました。
- ・ 食器洗浄搭載車の製作に協力しました。
- ・ 地球・人間環境フォーラムが行った全国リユース食器ネットワークの構築に協力しました。

ク 自然エネルギーWG

- ・ 企業の自然エネルギーやグリーン電力に対する認知度をあげ、連携関係を築いていくため、以下の活動を行いました。
 - 企業向けパンフレットの作成。
 - KES認証事業部に対し、「構築の手引き」環境取組状況チェックリストの項目に自然エネルギーの活用を盛り込むことを提案。認証取得企業へのメール配信。
 - 企業との対話をはかるため、意見交換会を開催。
- ・ 京都市と対話し、市と連携した自然エネルギー普及の仕組みについて検討しました。

(4)プロジェクトチーム活動

- ・ 「京都市地球温暖化対策条例」の策定過程でWGをはじめ幅広い市民参加を進め、実効性のある条例策定に貢献し、その後の推進における市民、事業者、行政等の協働を促進することも目指し、昨年度設置した「地球温暖化防止条例プロジェクトチーム」の活動を引き続き行いました。
- ・ 京都市及び京都市環境審議会に対して、この設立趣旨を踏まえた申入れを行い、市民、行政、審議会との対話などを行いました。
- ・ 「京都市地球温暖化対策条例」の制定に当たりオ

ーブフォーラムを開催し、一定の役割を終えてチームを解散しました。

(5) 交流・共催事業

ア 会員交流会

- ・ 総会第3部において、食の循環WGメンバーがお茶・コーヒー・お菓子の提供をして、会員間の交流を深めました。またその場で各WGから、これまでの事業報告や今後の事業計画についての提案を行い、WG間の交流を促進しました。

イ 共催事業等

- ・ 共催事業 2件
- ・ 委員就任 8件
- ・ 協力出展等 3件
- ・ 講師派遣 2件
- ・ 後援事業 18件

(6) キャンペーン活動

- ・ 京都議定書応援団・ストップザ温暖化キャンペーンを実施しています。

(7) 研修

- ・ 大学コンソーシアム京都と連携して講座を開講しました。

(8) 調査研究

- ・ 京エコロジーセンターの調査研究事業を協力して実施しました。
- ・ WG活動等に伴って各種調査を実施しました。

2 会議の開催

開催実績

- ・ 総会(6月26日)
- ・ 幹事会(3回)
- ・ 常任幹事会(4回)
- ・ コーディネーター会議(4回)
- ・ WG等の会議を随時開催しました。

3 会員

- ・ 平成17年3月末日現在の会員数
- | | |
|------|-----|
| 個人会員 | 275 |
| 団体会員 | 213 |
| 合計 | 488 |

4 事務局

(1) 組織の整備・強化等

- ・ 常勤コーディネーター1名(6月末で退任)、常勤スタッフ2名、広報担当リーダー1名、KES認証事業部は事務局長1名、常勤スタッフ2名の体制。
- ・ 随時インターン生を受け入れ。

(2) 中間支援(インターメディアリー)業務

複数の会員、グループや機関の参画する実行委員会もしくは会員となっている地域協働型組織が主体となって実施する環境社会実験や環境コミュニテ

ィ事業に関して、事務局スタッフ等が以下の支援協力コーディネート業務に携わりました。

- ・ 醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会(醍醐地域の自治町内会及び地域女性会他で構成)が事業化を進めている醍醐コミュニティバスの運行計画策定及びPI(住民参加)の取組の支援コーディネート業務

(3) 他機関との連携業務

他機関が開催する以下の会議に委員として参画しました。(委員名)

- ・ 京エコロジーセンター事業運営委員会(幹事長小幡範雄)
- ・ 京都省エネラベル協議会運営委員会(事務局宇高史昭)
- ・ 京都府地球温暖化防止活動推進センター運営委員会(事務局 竹村光世)
- ・ 京都府地球温暖化対策プラン検討会議(事務局 竹村光世)
- ・ 京都グリーン購入ネットワーク(KES認証事業部 副事業部長 荒川佳夫)
- ・ 歩いて暮らせる街づくり推進会議(環境にやさしい交通体系の創出WG 恩地惇)
- ・ 嵐山交通対策研究会(環境にやさしい交通体系の創出WG 渡辺洋)
- ・ 東山交通対策研究会(環境にやさしい交通体系の創出WG 恩地惇)

(4) 所在地

事務局

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

京都市環境局地球環境政策部地球温暖化対策課内

TEL: 075-222-4037

FAX: 075-222-4039

事務所

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>

KES認証事業部

〒615-0801

京都市右京区西京極豆田町2

京都工業会館内

TEL/FAX: 075-323-6686

E-mail: kesma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/>

5 役員名簿

(平成17年3月末日現在)

[代表]

内藤 正明 京都大学名誉教授・特定非営利活動法人循環共生社会システム研究所代表理事

[幹事長]

小幡 範雄 立命館大学政策科学部 教授

[幹事長代理]

枚本 育生 特定非営利活動法人環境市民 代表理事

[常任幹事]

浅岡 美恵 弁護士
阿蘇 紀夫 財団法人京都市環境事業協会 京エコロジーセンター事業長
小堀 脩 京都商工会議所 専務理事
笹谷 康之 立命館大学理工学部土木工学科 助教授
田浦 健朗 特定非営利活動法人気候ネットワーク 事務局長
高橋 修 京都市 環境局長
高橋 肇子 京都市地域女性連合会 常任委員
津村 昭夫 社団法人京都工業会 理事
中川 大寛 京都大学大学院工学研究科 助教授
山内 寛 京都市保健協議会連合会 副会長

[幹事]

石谷 彰男 環境クラブ京都 代表
大川 昭 社会福祉法人京都市社会福祉協議会 事務局長代理
大島 仁 京都市 都市計画局長
佐合 真 株式会社京都放送 総合事業企画室長
十倉 良一 株式会社京都新聞社 報道局長兼社会報道部長
中野 美明 京都市 産業観光局長
南北 幸雄 京都府中小企業団体中央会 専務理事
西村 清司 京都商店連盟 事務局長
西村 仁志 環境共育事務所カラース 代表
人見 康裕 社団法人京都青年会議所 副理事長
本部 正一 社団法人京都市観光協会 事務局長
三品 廣実 京都府企画環境部 環境政策監
水野 篤夫 財団法人京都ユースホステル協会 統括部長
文字 英夫 社団法人京都ボランティア協会 理事

[監事]

幸前 清孝 環境クラブ京都 副会長
原 強 特定非営利活動法人コンシューマーズ京都 理事長

京のアジェンダ21フォーラム 2004(平成16)年度事業報告

平成17年6月発行

発行者 京のアジェンダ21フォーラム

<事務局>

〒604-8571 京都市環境局地球環境政策部
地球温暖化対策課内

TEL: 075-222-4037 FAX: 075-222-4039

E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>

<事務所>

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター内

TEL: 075-647-3535 FAX: 075-647-3536

平成16年度収支決算報告書

[一般会計]

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額(C)	決算額(D)	差額
収 入	会 費 収 入		500,000	644,000	144,000
	事 業 収 入	企 画 ・ 催 事	76,000	64,367	11,633
		物 品 販 売	20,000	95,680	75,680
	補 助 金 収 入			0	0
	助 成 金 収 入			0	0
	受 託 金 収 入		13,664,000	13,664,000	0
	雑 収 入		806	15,576	14,770
	前 年 度 繰 越 金		339,194	339,194	0
	小 計(A)		14,600,000	14,822,817	222,817
支 出	事 業 費	情報収集・提供	3,210,000	2,976,056	233,944
		事業活動費	1,490,000	1,442,969	47,031
		交流・共催事業	50,000	44,209	5,791
		キャンペーン活動		0	0
		研修		0	0
		調査研究		0	0
	管 理 費	会議費	50,000	229,995	179,995
		人件費	9,520,000	6,988,504	2,531,496
		一般事務費	250,000	1,649,828	1,399,828
	予 備 費		30,000		30,000
	小 計(B)		14,600,000	13,331,561	1,268,439
収 支 差(A - B)			0	1,491,256	1,491,256

支出内訳(一般会計)

勘定科目及び金額		16年度 決算額	摘 要	
大科目	中科目			
事業費	情報収集・提供	2,976,056	季刊作成・発行	779,990
			月間掲載漫画原稿謝礼	40,000
			広報業務統括謝礼	1,200,000
			広報関係必要経費	71,131
			発送料(月刊)	511,517
			" (季刊)	158,527
			インターネット会費・サービス料	53,790
			メールニュース管理	161,101
	事業活動費	1,442,969	交通ワーキンググループ	22,465
			会議会場費等	
			食の循環ワーキンググループ	465,900
			冊子作成等	
			エコミュージアムワーキンググループ	89,746
			会議会場費, パネル作成等	
			エコツーリズムワーキンググループ	283,003
			会議会場費, 出前セミナー準備等	
			自然エネルギーワーキンググループ	135,076
			パンフ作成等	
			条例協働提案プロジェクト経費	11,400
			会議会場費	
			パソコンリース料, ソフト購入等	435,379

勘定科目及び金額		16年度 決算額	摘 要	
大科目	中科目			
事業費	交流・共催	44,209	サロンdeエコ開催経費	25,005
			関係団体等会費	14,420
			アースデイ自転車フェスタ	4,784
	キャンペーン活動	0		
	研修	0		
	調査研究	0		
管理費	会議費	229,995	会場使用料	4,000
			総会開催経費	209,330
			議事録作成謝礼	16,665
	人件費	6,988,504	賃金	6,988,504
			賃金・税金・保険料(一般会計)	(6,366,037)
			税金・保険料(KES特別会計)	(622,467)
	一般事務費	1,649,828	事務所 電気代相当分	180,000
			消耗品	251,708
			備品	45,480
			事務費	63,840
			消費税	471,300
			当期法人税等	637,500
次年度繰越金				
合 計		13,331,561		

[寄付金特別会計]

収支計算書

	大科目	中科目	予算額(C)	決算額(D)	差額(D - C)
収 入	寄付金収入		522,000	545,000	23,000
	雑収入		495	8	487
	前年度繰越金		557,505	557,505	0
	小計(A)		1,080,000	1,102,513	22,513
支 出	事業費		0	433,335	433,335
	管理費		0	0	0
	小計(B)		0	433,335	433,335
収支差(A-B)			1,080,000	669,178	410,822

平成16年度 京のアジェンダ21フォーラム・ワーキンググループにおける他機関からの補助等の事業概要について

関係WG	事業内容	事業主体（契約先）	申請事業名（主体）	確定額（円）	備考
エコミュージアムWG	多様な主体の協働による汎用性の高い小型ガス化システム導入事業化調査	特定非営利活動法人森林再生支援センター	平成16年度バイオマス等未活用エネルギー事業調査補助事業（経済産業省）	8,000,000	
エコまつりWG	リターナブル容器システムにおける運搬車両の開発と試行	地球・人間環境フォーラム	平成16年度エコ・コミュニティ事業（環境省）	4,813,925	一部費用で実施
	市民を中心としたエコまつりサポート体制の確立	地域環境デザイン研究所 ecotone	平成16年度環境先進モデル調査研究事業（京エコロジーセンター）	899,800	
環境にやさしい交通体系の創出WG 自転車タスクチーム	市街地の利用促進を目的に、交通社会実験を行った。本実験では、駐輪ポイントカード「さいくるん」を活用した。このカードの企画・制作を行った合名会社 結が、印刷経費を企業等の広告収入によりまか				

京のアジェンダ21フォーラムの今後のあり方

京のアジェンダ21フォーラムは、発足以来、様々な分野、立場を超えた環境まちづくりへの取組の実施や、多様な取組に対する支援を行ってきた。その実績に対して、国や民間企業から表彰されるなど、活動が活発になってきたことへの評価も高まっている。

京都議定書が京都で採択されたのを機に策定された「京のアジェンダ21」を推進する組織として発足した当フォーラムとしては、京都議定書の発効、そして京都市地球温暖化対策条例の制定という時期をとらえ、今一度、目的、目標、本来の使命を確認したうえで、改めて明確な目標を定め、フォーラムとしてできることを着実に推進するよう、心を新たに歩むことを誓い合う機会にしていきたい。

	現状	課題	対応
全 体	<p>京のアジェンダ21に掲げるテーマに則してWGを設置し、課題解決のための調査・研究等に取り組んできた。</p> <p>全国的にも先駆的な取組を進め、社会的にも影響を与えるなど、大きな成果を上げてきた。その中で、次に何をめざして行動していくべきかを考える段階に差しかかっている。</p>	<p>議定書発効や条例制定という時期に、フォーラムとして、改めて重点的に取り組むことを考え、テーマを設定していかなければならない。</p>	<p>改めて明確な目標を定め、情報収集・提供の中継地点としてのフォーラムにできることを着実に取り組んでいく。</p> <p>(検討)WGコーディネーター会議、事務局会議などの各会議の場で協議を重ねて、フォーラムとしての目標の明確化、推進方策等を検討する。</p> <p>実施:課題解決に向けて、フォーラムの戦略を考える会議を設置する。</p>
資 金 面	<p>限りある資金から、WGの活動を支えるための事務局人件費及びWG等の事業活動費を捻出しているために、十分な活動費が確保されていない。こうした状況にあって、活動する人たちの工夫や努力に支えられ、国の助成やエコセン等他団体との連携により活動経費をまかってきた。</p>	<p>他に依存しない独自の事業活動費を確保していく必要がある。</p>	<p>自主財源確保の努力</p> <p>実施:平成17年度市予算で増額措置を実施し、400万増を獲得した。</p> <p>(検討)寄付、会費等の収入増への努力の必要性を検討する。</p> <p>活動経費の配分を通じた重点事業の明確化</p> <p>実施:市予算増額分をフォーラムへの受託金に充て、それを事業費、管理費に積み、活動費を確保する。</p> <p>実施:WG等の活発な活動を推進するため、重点事業に対して活動経費を配分する。なお、オムロン助成金(30万円/年×3年間)の取扱についても重点事業に配分する。</p>

	現状	課題	対応
推進体制	<p>幹事会等，WG，事務局の各メンバーにおいて，フォーラムの意義や果たすべき役割に対する共通認識が必ずしも十分ではないため，役割分担がしっかりできていない。</p>	<p>フォーラム設立時における理念の共有化や，最近の社会情勢を鑑みた推進体制のあり方についての議論を通じて，それぞれの役割を再度整理することが必要である。</p>	<p>幹事会等，WG，事務局それぞれの役割，会議のあり方を整理する。</p> <p>実施：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幹事会等」は，運営方針や取組の方向性などを協議する場とする。 ・「WG会議」は，運営方針に基づき，他団体やWG間の連携を保ち，活動を推進する場とする。 ・「WGコーディネーター会議」は予算編成時期等の必要に応じて開催し，幹事会等の運営方針を共有化し，それを各WGでも共有化し，具体的な活動に反映していけるような場とする。 ・「事務局会議」は，幹事会等への提案事項の取りまとめ，幹事会等とWGとの連携を図ること，運営方針に基づいて進行の調整を図ることなどについて協議し，実質的な組織の運営を担う場とする。
事務局	<p>事業の立上げや推進において事務的なサポートや調整を行ってきたことにより，WG等の活動が広がってきたが，限られた労力の中で，そうした役割が十分担えなくなっている。</p> <p>現在，活動全体を把握し，コーディネートする役割を担うコーディネーターが不在である。</p>	<p>事務局機能の強化 コーディネーターの採用</p>	<p>コーディネーターの採用</p> <p>実施：フォーラムの活動に関して，内容を掌握し，実質的な調整や全体の方向付けを活動に浸透させるとともに，事務所の代表として業務を総括し，全体の進行管理等の運営を行うため，新たにコーディネーターを平成17年4月から採用した。</p> <p>事務局の役割を見直し，強化を図る。</p> <p>実施：上欄の推進体制での決定事項を着実に推進するため，フォーラムとして一体感のある活動とするために尽力し，WG間や関係団体，関係者との連携・調整を行い，事業を進展していく役割を担う。また，活動の進行管理を行い，経費管理など事務部分でも下支えをする。また，新たな事業の立案，市民参加型の環境まちづくり活動，企業との連携策を探る調査研究を行う。</p>

	現状	課題	対応
広 報	印刷物（紙媒体）の発行や、HP（電子媒体）の運営等により、会員等への情報提供を行っているが、フォーラムやその取組の認知度の向上や取組への参加者の増加にはそれほど結びついていない。	広報戦略の明確化と着実な実践 団体及びその取組の認知度の向上（告知効果の確認手法の確立） 取組への参加者の増加	事務局がWGコーディネーターとの連携を図り、広報戦略を検討する。 実施：事務局会議において、広報担当者を加えた会議を随時開催するとともに、適宜WGコーディネーターとフォーラムの活動に関する発信内容、媒体手段等を適宜調整し、実施する。 キャンペーンの実施 （検討）事業の重点化を図り、会員の位置付け等を確認した後に実施を検討する。 理解してもらいやすい情報提供に向けた手法の見直し及び中身の整理 （検討）マスコミ紹介記事等の有効活用（会報誌への同封など）を図り、メールニュースの内容等の整理をする。
W G	各WGにおいて、テーマに沿った調査研究等を実施していく中で、K E S、省エネラベル等、社会的な影響を与える実績を残してきた。しかし、WG活動を進めるための担い手が不足する中で、取組にも閉塞感が感じられる。	市の施策との連携 WGごとの活動目的を改めて明確化する必要がある。	目的、目標の見直しや明確化を図るなど、その役割を整理する。 （検討）WG会議、事務局会議での協議を通じて、短期、中長期の目標を明確にする。 取組経費の確保、目標に沿った予算の配分 実施：事業の確立時期にあるWGや重点活動と位置付けられるWGに対して集中的に予算を配分する。
連 携	地域をはじめとする様々な関係者との連携が重要であるとの認識のもと、これまでのWG等の活動実践を通じて、関係者との連携を図りつつ、一定の成果を挙げてきた。その中で、活動内容に関連の深い市の部署との連携が見られる反面、市の各部署においてフォーラムの認知がやや不足している。 円滑な連携・協力事業の実施を図るべく、エコセン等と三者連携会議を定期的開催しているものの、連携・それぞれの果たすべき役割が整理しきれていない。	市の各部署におけるフォーラムの認知度の向上 エコセンとの関係について、議定書発効・条例制定を機に、より大きな視野に立ってそれぞれの果たすべき役割を整理し、そのうえで連携・協力を進めていく必要がある。	市各部署との協議、提案 （検討）事務局としての役割を整理し、円滑な推進策について検討する。 社会情勢を鑑みながら、エコセンとの事業方針の検討についての協議を進める。 実施：両者間で協議を開始しており、連絡調整を密にするなど、継続して実施する。 WG間等との連携 （検討）地域との連携を重視したWG活動を継続するとともに、WG間の連携を図り、互いの強みを生かして事業を推進・発展させることを検討する。
会 員	発行誌やメールニュースによる情報提供をしているものの、WGメンバーその他活動の担い手の増加につながっていない。 賛同者である会員数の増加を図れていない。	会員の位置付けが明確ではない。 会員との双方向の意思疎通の緊密化と事業への反映が図れていない。	フォーラム会員について、位置付けの明確化、会員獲得の方向性の整理 実施：会員の感じていること、求めていることを把握するため、会員アンケートを実施した。

平成 17 年度活動方針及び事業計画（案）

地球温暖化防止を柱とした活動を展開してきた当フォーラムにとって、平成 17 年度は、市民・事業者・行政の協働のもと、「京都議定書の発効」と「京都市地球温暖化対策条例の施行」を踏まえ、「京のアジェンダ 21 と活動の再確認」のときであると考えます。

そこで平成 17 年度はそれらに基づいた方針を提案します。

平成 17 年度活動方針

1. 京都議定書、京都市地球温暖化対策条例を意識した活動を推進するため、
 - (1) 京都議定書、京都市地球温暖化対策条例を意識した活動への重点化を行います。
 - (2) 京都議定書、京都市地球温暖化対策条例を意識した活動への資源の有効活用を図ります。
 - (3) 京都議定書、地球温暖化対策条例の普及と目標達成に効果の見込める広報活動の強化を行います。
2. 京のアジェンダ 21 を念頭に置いた活動の検討と実行を行うこととし、
 - (1) 京のアジェンダ 21 を踏まえた活動の評価点検を行います。
 - (2) 京のアジェンダ 21 を推進するためのパートナーシップの強化・再構築を図ります。
 - (3) 京のアジェンダ 21 の普及や推進に効果の見込める広報活動の強化を行います。
 - (4) 京のアジェンダ 21 推進に向けた地域支援を行います。以上の方針に基づき、事業の展開を計ってまいります。

平成 17 年度事業計画

1. 「京のアジェンダ 21 フォーラム戦略会議（仮称）」の設置
 - ・京のアジェンダ 21 と活動の再確認と、フォーラムにおける現状の課題解決をめざす「京のアジェンダ 21 フォーラム戦略会議（仮称）」を設置する。
2. 重点化取組
 - ・事業者との協働による事業化、行政との協働による政策形成など、市民単独では実現の難しいことを実現していくための円卓会議機能を強化する。特に、地球温暖化対策につながる事業や効果的な意識啓発を強力に推進する。
 - ・KES 認証取得推進やえこまつりの普及など、事業者の環境取組の波及が期待できる、あるいは事業の確立時期にあると思われる活動に予算等の重点的な配分をする。

3. ワーキンググループ（WG）活動

別紙参照

4. 広報・コミュニケーション

前文のように、当フォーラムの活動に市民やステークホルダー 1 の参加と協働を促進するため、広報・コミュニケーションは重要であり、17年度は特に以下のことに取り組む。

- ・京都議定書・京都市地球温暖化対策条例の普及と目標達成に効果の見込める活動を行うために、環境コミュニケーションの媒体を整備・強化する。
- ・京のアジェンダ 21 の普及やそれを推進するために行う当フォーラムの周知に効果の見込める環境コミュニケーションの整備・強化をする。
- ・市民及びステークホルダーとのコミュニケーションによって、上記の浸透を図り、主体間の相互交流やパートナーシップの推進を行う。
- ・事務局会議等において、広報担当者を加えた会議を随時開催するとともに、適宜 WG コーディネーターと当フォーラムの活動に関する発信内容、媒体手段等を調整し、実施する。
- ・メディアミックス 2 による効果的な広報活動を推進する。また、そのための手法の調査・検討を行う。
- ・情報の受け手の視点に立った広報活動を展開していくために、事務局外の人員参加を促進する。
- ・その他、マスコミ紹介記事等の有効活用（会報誌への同封など）や、メールニュースの内容整理等、理解してもらいやすい情報提供に向けた手法の見直し及び中身の整理をする。

ア ホームページの整備

総合的なホームページデザインの改良を、16年度に引き続き実施する。特に WG の活動記録とアーカイブ 3 機能を充実させるとともに、操作性の改善も行う。あわせて、それに見合ったサーバの変更や、新たなツール導入の有用性についても検討する。

イ ニュースレター『あじえんだ』発行

当フォーラムの機関誌『あじえんだ』を年 4 回発行し、会員及び市民、ステークホルダーに配布することによって、活動の周知を行う。

ウ 事務局通信『月刊あじえんだ』発行

当フォーラムの活動予定や活動報告を随時掲載する事務局通信『月刊あじえんだ』を毎月発行し、会員に配布するとともに、オンラインでも提供する。

エ 京エコロジーセンター（エコセン）『京都環境イベントカレンダー』への情報提供

エコセンが毎月発行し、市民に配布している『京都環境イベントカレンダー』に当フォーラム主催・共催・後援及び当フォーラム会員主催のイベント情報などの情報を提供する。

オ メールニュース及びメーリングリストの運用

当フォーラムの活動情報や会員団体の行事予定などを広報するメールニュースを約 1 週間～10 日間隔で発行する。また、WG 単位などでの議論の場としてのメーリングリストを運用、管理する。

カ 事業報告書の作成

平成 16 年度の活動実績をまとめ、事業報告書を作成する。なお、一部はウェブ上からのダウンロードも可能とする。

キ キャンペーンの実施

京都議定書、地球温暖化対策条例などとの連動、会員獲得などといった観点から、事業の重点化を図り、会員の位置付け等を確認した後に実施を検討する。

5. 共催・後援・交流

ア 共催事業

会員団体・その他の団体と、開催趣旨が当フォーラムの活動と一致する事業を共同して催し、または必要な場合は後援を行う。

- ・会員団体・その他の団体の事業との共催・後援など
- ・京都議定書・京都市地球温暖化対策条例などに関する事業の共催・後援など
- ・エコセン事業との連携

イ 交流事業

会員間・会員とその他の活動団体、諸機関の間などの交流を図るため、交流事業を随時開催する。

- ・市民参加とパートナーシップによる持続可能な都市づくりに向けたコミュニケーション、連携を図るための交流の機会を設ける。
- ・これまで機会のなかった、あるいは交流の途絶えていた団体などの活動を調査し、必要に応じて交流の機会を設ける。

ウ その他の連携事業・出展など

上記のほか、多様な主体と連携して、京のアジェンダ 21 の推進に資する事業を行う。

- ・各種イベント等への参画・出展など

6．調査研究

「京のアジェンダ 21 フォーラム戦略会議（仮称）」設置に関連する調査研究を行う。

7．会議の開催

当フォーラムの活動を円滑かつ効果的に推進するための会議を開催する。

ア 総会

定例総会を年 1 回実施する。また、必要に応じて臨時総会も開催する。

イ 幹事会・常任幹事会

当フォーラムの運営に関する議事及び京のアジェンダ 21 推進のための円卓会議の場として、幹事会及び常任幹事会を可能な限り定期的を開催する。

ウ WG・プロジェクトチーム

具体的な事業や調査研究推進のため、WG 及びプロジェクトチームの会議を必要に応じ開催する。また、必要に応じ、随時新たな会議を開催する。

エ その他の会議

- ・事務局や WG 間の連携を図るためのコーディネーター会議を必要に応じて開催する。
- ・事務局と広報担当者、また WG コーディネーターとの連携による広報会議を必要に応じて開催する（「4．広報・コミュニケーション」に前掲）

8．研修

他団体などとの連携のもと、必要に応じて、会員をはじめ、広く市民・事業者への研修を行う。

語句説明

1 ステークホルダー

「利害関係者」のこと。意思決定によって、重要な影響力をもつ第三者をいう。

2 メディアミックス

様々な広報・コミュニケーション媒体を連動させた取組のこと。特に新聞や雑誌などのマス媒体とインターネットとの連動を指すことが多い。

3 アーカイブ

「記録保管所」という意味。ここでは情報の蓄積、収集を行う場やシステムを指す。

平成17年度 京のアジェンダ21フォーラム 各ワーキンググループ 活動目標と活動計画

	WGの目的	17年度の活動目標	17年度の活動計画
ライフスタイルWG	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民生活において、環境のことを考えた生活様式への誘導を図る。 ・ 持続可能な地域づくりを目指した地域の環境活動促進を行う。 ・ 活動を支援する関係組織間の情報共有の促進と基盤づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再検討中
企業活動WG	<p>京都市内における中小企業の環境保全活動を促進する。</p> <p>① 京都発環境マネジメントシステム『KES』認証取得事業所の拡大 ② 「かんきょうレポート」の普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷削減の観点から京都市内事業者のKES認証取得率を50%以上とする。 ・ 「かんきょうレポート」作成事業者を登録企業の10%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者への呼びかけ、「かんきょうレポート大賞」創設など「かんきょうレポート」発行の促進支援 ・ 「KES活動説明会（仮称）」開催への協力（京都工業会・京都市共催） ・ 消費者へのKESの周知方法検討 ・ 京エコロジーセンターと協働（事業者向け環境学習プログラム開発） ・ テキスト作成の際の情報提供
エコツアーリズムWG	<p>宿泊施設等の環境問題への取組のサポート、修学旅行生へのエコツアーの提供等により、市内の観光施設、宿泊施設、企業に関わってもらい、京都市を環境調和型観光都市にしていくことを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅館・ホテル、旅行代理店等各機関と連携して、環境負荷を抑える取組を行おうとする旅館・ホテルに対する支援の充実、取組が遅れている旅館・ホテル、及び一般市民に対し、意識啓発を行う。 ・ 修学旅行生の誘致活動、エコツアーの研究・普及をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅館・ホテルの環境問題への取組の様子、これまでのWGの活動、国内外の事例を紹介するWEBサイト作成 ・ 旅館・ホテル、観光業者対象のセミナー開催 ・ 旅館・ホテルの社内向けメール配信、ワークショップ、キャンペーン実施 ・ 京エコロジーセンターと協働（エコツアーを実践している市民団体、プログラムなどの基礎情報のエコセンへの提供等）
交通WG	<p>環境にやさしい交通体系を創出する。</p>	<p>3つのタスクを核にして活動する。</p>	
交通WG 自転車タスク	<p>自動車から自転車への利用転換を促すために、民間駐輪場の創出と駐輪場ネットワーク化を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐輪場の収益性を高める具体的な手法を開発する。 ・ 自転車利用者の駐輪場適正利用を促す手法を開発する。 ・ 民間・公営駐輪場のネットワーク化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間・公営駐輪場の連携手法の開発・提案 ・ 駐輪場創出および利用促進に関する地域・事業者との協働 ・ 地域・商業などと連携する自転車利用者の意識啓発、自転車利用者への働きかけ

	WGの目的	17年度の活動目標	17年度の活動計画
交通WG 公共交通 タスク	自動車から公共交通機関への利用転換を目指すために、京都のエコ交通情報源（バス鉄道などの現状・運営・歴史・展望）の構築を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム活動の中で収集してきた情報を中心に整理し、Webサイトで公開する。 ・このサイトを通じて新たな情報の収集を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ交通情報サイトの立ち上げ（試行版がすでに稼動中） ・基本的な情報集および新規情報集の作成、出版
交通WG 都心総合 タスク	歩くまち京都を市民にアピールするため、魅力ある都心づくり「都心部におけるエコ交通プラン」の実現を目指す。	平成13（2001）年に立案・公表した「都心のエコ交通プラン」の内容を具体化していくために、関係主体への働きかけ、フォーラムとしての活動やアピール、交通事業者との対話と共同事業などを検討し、具体的な成果の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部における交通問題に関する関係者との交流・意見交換・具体策の立案 ・東山地域における交通社会実験と連動する「まちづくり」的手法の研究開発 ・重点提案に関するモデル・イメージ作成
交通WG 3タスク 共同	京都市交通局との対話と地下鉄・バス活用戦略の共同立案を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のバス事業を活用する新たな戦略と利用促進策の提案 ・バス、その他のエコ交通を地下鉄等に連携させる手法を提示し、交通局とフォーラムが連携した利用促進策を企画、実施 	<p>未定（以下は案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閑散バス路線における利用促進手法の開発 ・100円循環バスの利用促進と定時性の向上への具体策の検討 ・地域ベースのバスの支援・活用プログラムの立案等
エコ ミュージ アムWG	<p>長期計画としては、京都市全体をまるごと博物館と見立てたエコミュージアムの実現を目指す。</p> <p>中期計画としては、大原野森林公園を京都まるごと博物館の1つとして、「森のまるごと博物館」の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に魅力が伝わるメディアミックス展示を完成させる。 ・森林公園で市民が公園を適切に利用できるような活動を始めるとともに、希少種などの生物の保全を図る適正な公園管理業務の支援を行う。 ・CO2削減などの効果を生み出す多様な主体による森林管理と木質バイオマスの事業を実施できる体制づくりを目指す。 ・多様な主体による森林管理と木質バイオマスの事業に関する事業調査の成果と計画を公表する。 	<p>（公園管理運営協会との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の案内所の展示の充実 ・森林公園のWEBサイトの第1次整備の完成と公開 ・森林公園の案内用パンフレットの完成と配布 ・市民向けの森の教室の企画と実施と偏った公園利用がある時期の管理の強化策の提案 ・音声や動画のアーカイブ情報の保存方法、森の案内人の日誌などの記録システムの検討 <p>（木質バイオマス他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス事業の成果の発表会の開催 ・日本エコミュージアム研究会全国大会における取組発表
食の循環 WG	地球温暖化防止や資源循環についての家庭における環境意識啓発、実践活動を促進するため、身近なごみの減量を図る地域での生ごみを堆肥化する食の循環システムづくりを通して、まちづくりと環境教育を進める。	・再検討中	・再検討中

	WGの目的	17年度の活動目標	17年度の活動計画
エコまつりWG	お祭りやイベントにおける環境対策を広めるための取組やシステムづくりを目指す。	2つのタスクを核にして活動する。	
エコまつりWG リユース容器の啓発活動タスク	環境へ負荷を与えるお祭りやイベントにおける容器ごみの減量化を図るため、リターナブル（リユース）容器の使用を促進する。そのための人手の確保とシステム導入のためのノウハウの普及を図る。	環境に配慮したお祭りやイベント「エコまつり」でのリターナブル（リユース）容器システムの啓発に特化して調査研究と啓発活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> リターナブル（リユース）容器システム啓発のための容器貸出の運営方法の検討 お祭りやイベントにおけるリターナブル（リユース）容器システムのコーディネーターの養成のための勉強会の開催 「まつり」をテーマとした他団体との交流、京都での活動の報告会の開催
エコまつりWG エコまつり認証制度の検討タスク	直接的なメリットが少ない環境への取組を広く促していくため、市民や民間の手でガイドラインや認証制度を創設し、お祭りやイベントの環境対策を促進する。	お祭りやイベントの環境対策、支援体制に関する情報整理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 大学の研究室等と協力して全国のお祭りやイベントにおける環境対策とその効果、支援フレームに関する調査
自然エネルギーWG	京都における自然エネルギーの普及・拡大のための仕組みを構築する。	企業とのパートナーシップ形成に向けた調査、研究を行い、KES認証事業部の協力のもと、企業と連携した自然エネルギー普及のシステムづくり、自然エネルギー普及に向けた京都市への具体的な政策提案等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 企業をゲストに招いた研究会開催、報告書の作成 京都市内における自然エネルギー普及のための政策メニューを検討し、京都市へ提案 学校、幼稚園、保育園などへの省エネ活動・自然エネルギー普及策を検討し、京都市などへ提案

第4号議案 平成17年度予算案について

平成17年度収支予算(一般会計) (案)

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額	決算額	予算額	摘要
収 入	会 費 収 入		500,000	644,000	500,000	
	事 業 収 入	企 画 ・ 催 事	76,000	64,367	64,000	
		物 品 販 売	20,000	95,680	20,000	
	補 助 金 収 入			0		
	助 成 金 収 入			0	300,000	
	受 託 金 収 入		13,664,000	13,664,000	17,664,000	
	雑 収 入		806	15,576	744	
	前 年 度 繰 越 金		339,194	339,194	1,491,256	
	合 計		14,600,000	14,822,817	20,040,000	
支 出	事 業 費 230万増 (オムロン助成金30万含む)	情報収集・提供	3,210,000	2,976,056	3,600,000	
		事業活動費	1,490,000	1,442,969	3,400,000	
		交流・共催事業	50,000	44,209	50,000	
		キャンペーン活動	0	0	0	
		研修	0	0	0	
		調査研究	0	0	0	
	管 理 費 200万増	会議費	50,000	229,995	200,000	
		人件費	9,520,000	6,988,504	10,720,000	
		一般事務費	250,000	1,649,828	900,000	
	予 備 費		30,000	0	1,170,000	
次 年 度 繰 越			1,491,256			
	合 計		14,600,000	14,822,817	20,040,000	

第3号議案 平成17年度活動方針及び事業計画案について

第4号議案 平成17年度予算案について

第5号議案 役員改選について

支出の部
事業費

[情報収集・提供]	3,600,000円
広報紙発行作業業務謝礼	1,200,000円
広報紙発行	1,711,000円
季刊発行 印刷	480,000
編集・取材謝礼	320,000
郵送	180,000
月刊発行 郵送	640,000
漫画原稿謝礼	40,000
封筒作成	51,000
インターネット会費	100,000円
メールニュース管理	289,000円
啓発チラシ等作成	300,000円
[事業活動費]	3,400,000円
ワーキンググループ（WG）活動経費	
「かんきょうレポート」作成援助（企業活動WG）	300,000円
市民への啓発、旅館ホテルへのエコ化支援WEBサイト作成（エコツーリズムWG）	295,000円
旅館ホテル経営者への出前セミナー開催費（エコツーリズムWG）	15,000円
エコ修学旅行、調査資料作成費（エコツーリズムWG）	30,000円
駐輪促進メディアキャンペーン広報，地域との連携（交通WG）	150,000円
エコ交通情報サイトの立ち上げ，情報整理（交通WG）	150,000円
木質バイオマス事業の成果発表会開催等（エコミュージアムWG）	186,000円
リターナブル（リユース）容器システム啓発（エコまつりWG）	100,000円
リユース食器フォーラム開催経費（エコまつりWG）	250,000円
全国のお祭りにおける環境対策・効果調査（エコまつりWG）	180,000円
追加提案事業	1,744,000円
[交流・共催事業]	50,000円
[キャンペーン事業]	0円
[研修費]	0円
[調査研究費]	0円
管理費	
[会議費]	200,000円
会場使用料	50,000円
総会資料作成	90,000円
資料送付	60,000円
[人件費]	10,720,000円
事務局職員賃金	9,500,000円
WGアシスタント，アルバイト経費	1,220,000円
[一般事務費]	900,000円
事務所電気代相当額	180,000円
備品・消耗品費	470,000円
通信費	250,000円
予備費	1,170,000円

第5号議案 幹事及び監事の選任案について

[京のアジェンダ21フォーラム 幹事・監事 候補者案]

(五十音順)

<幹事> 定員30名

浅岡美恵	弁護士
阿蘇紀夫	財団法人京都市環境事業協会 京エコロジーセンター事業長
石谷彰男	環境クラブ京都 代表
今泉英一郎	京都府企画環境部 環境政策監
大川昭	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 事務局長代理
大島仁	京都市 都市計画局長
小幡範雄	立命館大学政策科学部 教授
小堀脩	京都商工会議所 専務理事
佐合真	株式会社京都放送 総合事業企画室長
笹谷康之	立命館大学理工学部土木工学科 助教授
枚本育生	特定非営利活動法人環境市民 代表理事
田浦健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク 事務局長
高田光治	財団法人京都ユースホステル協会 ユースホステル部長
高橋修	京都市 環境局長
高橋肇子	京都市地域女性連合会 常任委員
津村昭夫	社団法人京都工業会 理事
十倉良一	株式会社京都新聞社 報道局次長兼社会報道部長
内藤正明	京都大学名誉教授・特定非営利活動法人循環共生社会システム研究所代表理事
中川大	京都大学大学院工学研究科 助教授
中川藤兵衛	京都商店連盟 事務局長
中野美明	京都市 産業観光局長
南北幸雄	京都府中小企業団体中央会 専務理事
西村仁志	環境共育事務所カローズ 代表
人見康裕	社団法人京都青年会議所 副理事長
本部正一	社団法人京都市観光協会 事務局長
文字英夫	社団法人京都ボランティア協会 理事
山内寛	京都市保健協議会連合会 副会長

<監事> 若干名

幸前清孝	環境クラブ京都 副会長
原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都 理事長

ビジョンと主な取組

ライフスタイル WG は、環境にやさしいライフスタイルを普及することを目的としています。その実現に向けて、環境にやさしいライフスタイルをそれぞれの地域で広める仕組みの検討や実践に取り組んでいます。

メンバー紹介

WG コーディネーター 袖岡信明氏
活動にあわせて再検討中

これまでの歩み

< 1999年度 > ライフスタイルWG 立ち上げ

環境家計簿・グリーンコンシューマーなどの勉強会を開催しました。

< 2001年度 > エコライフ認証制度調査実施

エコライフに取り組む人を応援する仕組みの他地域の事例を調査し、京都での導入検討を行いました。

< 2002年度 >

「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」をエコセンに提案

エコライフ認証制度調査の結果からまとめた「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」を京エコロジーセンターに提案しました。

「コミュニティのアジェンダ 21」タスク、「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」タスク活動開始

WG 参加メンバーから家電製品への省エネラベル貼付導入検討の提案があり、「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」タスクを創設しました。あわせて「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」実施を進める「コミュニティのアジェンダ 21」タスクも立ち上げました。

省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーンの実施

市内 18 店舗でキャンペーンを実施しました。同時にキャンペーン説明を中心に地球温暖化防止についての市民学習会を開催しました。

< 2003年度 >

地域モデル事業の開始

伏見区醍醐を「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」実施検討のモデル地域とし、専門的環境NPOと地域グループとの連携で連続学習会を開催しました。

省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーンの実施

府内 169 店舗でキャンペーンを実施しました。市民への学習会も引き続き開催しました。



< 2004年度 >

地域モデル事業の継続実施

伏見区醍醐地域を引き続きモデル地域とし、取組を継続実施しました。6月に開催された「醍醐環境フェスタ」に実行委員会（代表：伏水サポートネットワーク吉村睦子氏）のメンバーとして参画しました。



省エネルギー協議会の設立

タスクのメンバー（コーディネーター 伊東真吾氏（有ひのでやエコライフ研究所）NPO 法人環境市民、NPO 法人気候ネットワーク、NPO 法人木野環境、京都府地球温暖化防止活動推進センター、NPO 法人コンシューマーズ京都、(株)ジイケイ京都、(有)ひのでやエコライフ研究所、京エコロジーセンター（(財)京都市環境事業協会）、京都市）を中心に、7月に「省エネルギー協議会」を立ち上げ、タスクから活動を移行しました。

2005年度の活動計画

WGの再構築

・WGとしての活動の再検討

地域で環境活動をしやすい環境づくりにむけた提案を行うこと、関係者間（地域活動団体、フォーラム、その他の支援組織）の連携・協力関係の向上を図ることを目指し、シンポジウムの開催、報告書の作成を検討します。



ビジョンと主な取組

京都市内における中小企業の環境活動（グリーン・エコノミック・ネットワークづくり）を促進する。

京都発の環境マネジメントシステム「K E S」審査登録制度創設、普及拡大。
環境報告書（「かんきょうレポート」）のひな形の普及活動。
「京都グリーン購入ネットワーク」への参加。

メンバー紹介

企業の現役・OBをはじめ学識者、市民・市民団体、行政の関係者等、企業活動と環境影響、グリーン・エコノミック・ネットワーク、中小企業への環境活動支援等に関心をもつメンバーが集まり、自由で独創的な企画について活発な議論を展開している。

これまでの歩み

2001年4月：環境マネジメントシステム「K E S」をスタートさせ、2005年3月末現在、全国で審査登録組織は439件。
2003年12月：「かんきょうレポート」のひな形を作成、京のアジェンダ21フォーラム・K E S 認証事業部ホームページ等に掲載。
2004年11月：2001年より京都府・京都市・京都工業会等関係者によって設立準備を行っていた「京都グリーン購入ネットワーク」が設立。

2005年度の活動計画

1 K E S 関連

(1) 審査登録活動の促進

K E S 認証取得率を、京都市内の全事業者の50%以上とすることを目指す。

(2) 「K E S 活動説明会（仮称）」開催への協力（京都工業会・京都市共催）

(3) 消費者へのK E S の周知方法検討

(1)、(3)を達成するため、K E S のP R 版パンフレットを作成する。

2 環境報告書

「かんきょうレポート」作成事業者を、K E S 認証登録企業の10%以上とすることを目指す。

3 他機関との協働

京都市が主催して実施する事業者向け環境学習プログラムに協力する。（テキスト作成の際の情報提供等を行う。）

KES 参考データ

1. KES 審査登録実績

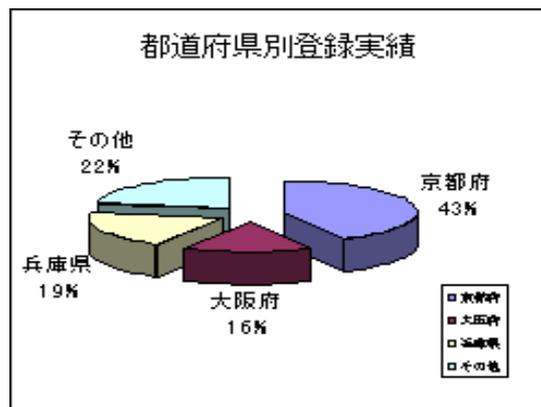
2005年3月末現在で596件の認証取得。

KES・都道府県別審査登録実績(2005年3月末現在)

都道府県	取得件数	都道府県	取得件数
近畿	滋賀県	北陸	富山県
	京都府		石川県
	大阪府		福井県
	兵庫県	東海	岐阜県
	奈良県		静岡県
	和歌山県		愛知県
北海道	北海道	三重県	4
東北	青森県	中国	鳥取県
	岩手県		島根県
	宮城県		岡山県
	秋田県		広島県
	山形県		山口県
	福島県		徳島県
関東	茨城県	四国	香川県
	栃木県		愛媛県
	群馬県		高知県
	埼玉県	九州	福岡県
	千葉県		佐賀県
	東京都		長崎県
	神奈川県		熊本県
	山梨県		大分県
	信越		長野県
新潟県		鹿児島県	
		沖縄県	
合計			596

	件数	%
京都府	253	43
大阪府	95	16
兵庫県	114	19
その他	134	22
合計	596	100

京都市 198



他団体の認証含む

2. 適用拡大

KES、他地域・組織との交流状況

取り組み内容	地域・組織等
KES規格で協働活動実施	<p>○2002年8月：おおつ環境フォーラム（滋賀県大津市）</p> <p>○2003年11月実施 日立製作所</p> <p>2004年1月実施 こうべ環境フォーラム（神戸市）</p> <p>2004年8月実施 みえ環境県民運動協議会（三重県）</p>
KESに準拠	たけふ環境認証機構（福井県武生市）

3. 環境報告書（かんきょうレポート）

「かんきょうレポート」ひな形は、KES 認証事業部ホームページにて公開しています。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/index.htm>

ビジョンと主な取組

エコツーリズムWGでは、京都における環境調和型観光（エコツーリズム）の実現をめざして、京都の新しいエコロジカルな魅力づくり、観光関連サービスのエコロジー化、観光関連施設のエコロジー化を目標としています。

2002年度から2004年度までは、観光関連施設のエコロジー化に力を入れ、「環境にやさしい旅館・ホテル」試行事業（以下、試行事業）に取り組みました。試行事業では、旅館・ホテルのKES認証取得をサポートし、成果として3件の旅館・ホテルが認証取得しました。

今後は環境対策に積極的な宿泊施設をエコツアー情報の発信拠点としていくことで、京都を環境調和型観光都市の草分けにしていきたいと考えています。

メンバー紹介

WGは、エコツーリズムに関心のある市民をはじめ、エコツアーを実践しているNPOのメンバー、専門家、観光に関わる仕事をされている方、観光行政関係者など様々です。また試行事業では、旅館・ホテルの方、旅行代理店の方にもご参加いただきました。

これまでの歩み

1999年4月に第1回の会合が開かれ、以来、環境に配慮した観光を京都で広めていこうと、月1回開催される運営会議を核にしながら、さまざまなプロジェクトを行ってきました。

観光施設エコ化プロジェクト

- ・1999年度* 宿泊施設的环境問題に関するお客様へのアンケート調査
- ・2000年度* 京都市内の宿泊施設の廃棄物調査
- ・2001年度* 京都市内の宿泊施設的环境対策への取組に関するアンケート調査
- ・2002年度 グリーン購入ネットワークの「ホテル・旅館」選択ガイドライン策定作に参加、協力。京都で説明会を開催
- ・2003年度～2004年度 「環境にやさしい旅館・ホテル」試行事業の中で、旅館・ホテルに環境問題への取組をすすめて頂くためのビデオの製作、宿泊客への啓発ツールの作成、提供を行った。また、宿泊客、経営者、従業員向けのアンケート調査の実施分析を行った。



（写真：第4回試行事業実行委員会）

（*印は、大学の研究室と協働で実施）

京都エコツアー実践交流プロジェクト

- ・2001年12月からパイロット事業として、「京都都市型エコツアープロモート手法実証」を調査。京都・サイクリング・ツアー・プロジェクト（KCTP）の実施したツアーをもとに実証実験を行った。
- ・2001年2月より、京都ならではのエコツアープログラムを掘り起こすため、「京都エコツアープログラム」調査を実施、その後エコツアー実践団体の交流会を開催。

普及啓発・学習活動

- ・2000年2月10日「エコツーリズム都市・京都シンポジウム」開催
- ・同年6月から「エコツーリズム月例セミナー」（全6回）
- ・2000年4月～2001年3月 京都新聞朝刊に「『おこしやす』を考えよう！ 観光活性化のためのエコツーリズム」を計12回連載
- ・上記京都新聞連載をまとめた冊子「エコツーリズム都市京都に向けて」を発行

エコツアー企画

- ・1999年11月11日 エコマップを作ろう（於 中京区 元梅屋小学校周辺）
- ・2000年2月11日 京の町家をたずねて（於 中京区吉田邸）
- ・2001年6月24日 自然100選あじわいエコツアー～森との出会い、森での出会い～（於 法然院の森）
- ・2002年6月30日 エコツアー「伏見水紀行」

2005年度の活動計画

旅館、ホテル、旅行代理店等各機関が連携して、環境負荷を抑える取組を行おうとする旅館・ホテルに対する支援の充実、修学旅行生の誘致活動、エコツアーの研究・普及に取り組んでいく予定です。

1. 旅館・ホテルのエコ化支援

HPの充実

旅館・ホテルの環境問題への取組の様子、これまでのエコツーリズムWGの活動、国内外の事例をWEB上で紹介する。HPの充実により、環境問題に熱心に取り組んでいる旅館・ホテルが多く宿泊客を獲得し、取組が遅れている旅館・ホテルの背中を押すような内容を目指す。

セミナー、ワークショップの開催等

観光に関わる仕事をされている方々の会合等に赴き、短時間のセミナーをさせて頂く。また、旅館・ホテルに対し、社内向け意識啓発ツールのメール配信、ワークショップ、キャンペーン（例 1施設1取組キャンペーン、環境にやさしいモデル客室キャンペーン）を実施することで、旅館・ホテルにとって取り組みやすい方法でのエコ化サポートを模索・実践する。

2. エコ修学旅行誘致活動協力

京都でのエコ修学旅行を広めていくための広報・調査活動を行う。具体的には京エコロロジーセンターが学校あての誘致を促すチラシ、ウェブを作成する際、エコツアーを実践している市民団体、プログラムなどの基礎情報を、当WGからエコセンに提供する。

今後、エコセンや産業観光局と連携し、京都でのエコ修学旅行での案内を行うことができる人材を養成し、更なる誘致を目指す。

ビジョンと主な取組

「環境にも人にもやさしい交通体系の創造」をめざして、以下の目標の実現に取り組んでいます。

- ・公共交通の利用促進
鉄道やバスなどの公共交通がすでに整備されている京都市において、これらの公共交通をもっと有効に活用するとともに、さらに使いやすく、市民に愛され、環境負荷の少ない公共交通の導入、整備などをめざしています。
- ・自転車の利用促進
自転車は最もエコロジカルな移動ツールです。コンパクトで平坦な地形を持つ京都市は、自転車の利用に適しています。路上放置や駐輪場の不足、走行空間の不備やマナーの低下などの問題を解決し、自転車を活かせる都市「京都」をめざしています。
- ・自動車交通量の抑制
交通の中で最も環境負荷が深刻な自動車に着目し、温室効果ガスの発生抑制を軸に、自動車に依存しない都市「京都」の実現をめざしています。
- ・交通環境づくり
環境にやさしい交通手段を、安全・快適に利用できるよう、歩行者環境、自転車走行環境および公共交通の利便性の向上をめざしています。特に、京都市都心部での歩行者環境の改善を重視しています。
- ・環境負荷の少ない自動車の普及促進
自動車による環境負荷の抑制のために、自動車そのもののゼロエミッション化の推進と普及をめざしています。

メンバー紹介

- ・自転車が好き！
自転車タスクチームには、自転車を愛用し、自転車環境の問題に強い関心を持つ「愛輪家」が集っています。
- ・電車やバスが好き！
少年の心をそのままに、電車やバスをこよなく愛する人々が、公共交通タスクに集っています。
- ・交通関連の事業者のみなさん
レンタサイクル、タクシー、バスなど、交通サービスの事業に携わる方々が、事業の中での社会への貢献をめざして集まっています。
- ・研究者、デザイナー
交通に関する技術的、社会的な調査や研究をしている人々、交通ツールを含む工業デザインを手がける方々、交通安全施設の整備や開発に関わる方々もいます。
- ・学生さん
環境問題、交通やデザインなどを学ぶ学生さんも多く参加してくれています。交通社会実験などでは強力な実戦部隊となります。

これまでの歩み

100円循環バス応援団（2000年度）

都心部で休日に運行している100円循環バスの導入を促し、利用促進のためのキャンペーンを実施

「歩くまち京都・都心のエコ交通プラン」提案（2001年度）

都心部を中心に、自動車に依存しない交通環境のイメージをビジュアルに表現して公表

VELOTAXI 運行開始までの協力（2001～2002年度）

2002年5月に運行を開始したVELOTAXIの立ち上げに協力しました

臨時駐輪場等の社会実験実施

- ・「まちなかを歩く日」と連動した「まちなか特設有料駐輪場実験」（2001～2002年度）
路上放置がめだつ都心部に臨時的駐輪場を設けて、放置抑制の効果、利用者の実態と事業性などを調査・検証
- ・「グルッと洛西！」レンタサイクル実験（2002年度）
嵐山の既存レンタサイクルを市内西部各所で返却できるサービスを実験。京都ウェストサイド物語との協働による
- ・都市型レンタサイクル実験（2002年度）
環境省委託事業として実施した「エコ交通プロモーション事業」。市内6箇所の駅前にレンタサイクルを設置。別の駅で返却できるサービスの有効性などを検証
- ・駐輪ポイントカード「さいくるん」実験（2004年11月）

公営・民間駐輪場で共通ポイントを集める「カード」により、駐輪場の利用促進と、駐輪行動の調査を実施。

「京都の公共交通の未来を創る市民フォーラム」開催、宣言発表（2002年度）
公共交通のシステム、それぞれの交通モードの問題と可能性、経営とコスト負担など、公共交通の未来と持続性を市民が支えるための議論を連続開催。その成果を「市民宣言」として公表

醍醐コミュニティバス運行開始までと、開始後の利用促進支援（2002年度～）

醍醐地域の市民とバス事業者が協働で運営するコミュニティバスの企画・立ち上げを支援。2004年2月の運行開始後は利用促進を重点に支援中

交通に関する情報伝達、啓発

- ・「かたつむり大作戦」でのラジオ放送（2003年度）
KBS 京都の恒例企画「かたつむり大作戦」で京都市の交通問題を「環境」の観点からアピール
- ・自転車トーク番組の制作・放映などを通じた情報伝達（2003年度）
自転車をもっと使える京都をめざして、多彩なゲストを迎えてのトーク番組を制作、放映



京都での自転車活用を支援するサイクリングガイドブックの制作などへの協力（2003年度）
自転車で楽しむ京都の暮らしと遊びのためのガイドブックの企画、取材に協力

エコセン総合学習支援への参加（2003年度～）

府立洛水高校の総合学習で、自転車をテーマに授業を企画、参加。2004年度も継続。あわせて2004年度は伏見工業高校でも実施。

環境教育ミーティング（2004年12月、京エコロジーセンター）

環境教育に関する交流イベントにおいて、交通をテーマとする環境教育実践セッションを企画・実施。

平成 2005 年度の活動計画

1. 都心における駐輪場の創出と活用促進の具体手法の開発（自転車タスク）

深刻な都心部での路上駐輪問題と、自転車の適性で活発な利用の促進のために、その前提となる「駐輪環境」の抜本的な改善をめざします。そのために、商業施設、商店街や地域組織の具体的な動きと連携し、事業としての駐輪場運営に関わる新たな手法の開発と実証実験を行います。特に、広告手法などを通じて事業者等のメリットを創出することにより、事業性の向上をめざします。

2. 京都の交通関連データの収集・整理・公開（公共交通タスク）

公共交通市民フォーラムの成果（市民宣言）を受け、その実現をめざして、より具体的な議論の基礎となる「データ」の収集・整理を進め、インターネットを通じて公開するとともに、データ集等の出版を通じて、幅広い情報の共有と議論の喚起をめざします。

3. 都心および東山地域におけるエコ交通戦略の具体化（都心総合タスク）

都心のエコ交通プラン（2001）の具体化に向けて、幅広い市民の参加を呼びかけ、地域・商店街レベルでの取り組みをつなぎつつ、合意・実現可能な具体的な手法とロードマップ、関係者間の協働を役割分担の明確化をめざします。また、東山地域における交通社会実験の効果の向上のため、「まちづくり」的手法による取り組みを、地域住民等とともに検討します。



4. 京都市交通局との対話とサービス改善への提案（全タスク共同）

京都市交通局によるバス、地下鉄サービスを、京都市における公共交通の基幹として重視し、その利用度の向上を通じて、自動車から公共交通への転換を図ることを目標に、公共交通サービスの改善提案を交通局との対話を通じて共同の取組を検討します。

ビジョンと主な取組

エコミュージアムとは、地域丸ごと博物館の意味であり、地域固有の環境を守り育てていくとともに、地域社会のつながりを大切にしながら地域経済を発展させるための学びの活動です。そこで、当 WG は、長期計画としては、京都市全体をまるごと博物館と見立てたエコミュージアムの実現を目指しています。中期計画としては、大原野森林公園（森）を京都まるごと博物館の 1 つの展示場所と見立てて、森のまるごと博物館を実現します。

メンバー紹介

メンバーは、西山を舞台として活動する自然保護団体の人々、里山に関心のある人々、エコミュージアムに関心のある人々（コンサルタント、研究者、学生など）などが中心です。大原野森林公園の管理を委託している地元の大原野森林公園運営管理協会の人々や、委託元の京都市建設局緑地管理課と連携しながら、活動を進めています。

これまでの歩み

< 2000年度 > エコミュージアムWG活動開始

先進地での活動の様子を聞き、体験する研究例会を第 1 回から第 8 回まで開催しました。

< 2001年度 >

第 9 回から第 14 回までの研究例会を開催しました。

< 2002年度 >

大原野森林公園をエコミュージアムのサテライトと見立てて活動を始めました。

< 2003年度 >

1. 地元の人々と「森の案内所」の展示物を創るワークショップを兼ねた、大原野森林公園運営管理協会の楽しい研修をしました。
2. 森の案内人のメンバーとともに公園内の調査をしました。



貴重な植物も、シカに食べられる
獣害にあっています。
対策をねらないと・・・



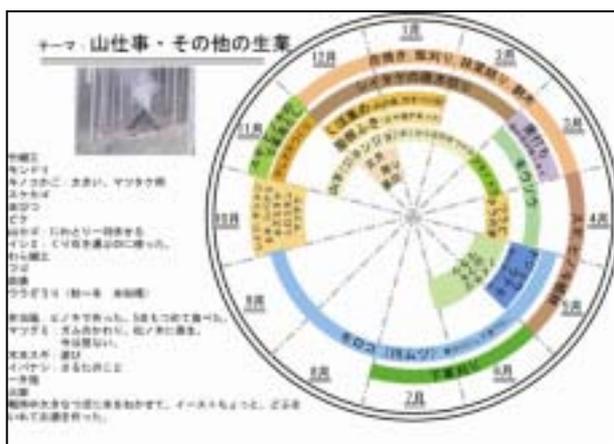
3. 大原野森林公園にある炭窯で、炭焼きと、その記録づくりをしました。
4. 人工シユラによる間伐材の集材実験をしました。



< 2004年度 >

メディアミックス（様々な媒体を組合せた）展示の企画・実施
森の案内所の展示用 A 1 パネルポスター 10 枚を作成しました。
森林公園の紹介ビデオを制作しました。
森林公園の Web ページを準備しました。

森林公園の案内用パンフレットの計画を検討しました。



公園の情報をデジタル化して管理し、ポスター等を用いてわかりやすく共有を提供しています。

木質バイオマスモデル調査

木質バイオマス事業の実現性の調査を行い、多面的な効果が見込まれることから、市民の手で集材して、丸太ボイラーを導入することが望ましいことを示しました。



丸太（ログウッド）ボイラー



人工シュラを使った集材作業

2005年度の活動計画

Web ページの技術を用いた WG 内のコミュニケーション・システムの整備

森林公園の Web サイトの第 1 次整備の完成と公開

訪問者が一人で散策できる森林公園の案内用パンフレットの完成と配布

森の案内所の現物展示の充実

音声や動画のデジタルな記録方法の検討

市民向けの自然観察会の企画と実施

適正な公園利用のための公園管理の方法の検討

大原野の地元と市民に対して、木質バイオマスの調査の成果を共有する発表会の実施

ビジョンと主な取組

京都のお祭り／イベントを環境に配慮したものにする

- ・ 京都市内各所のお祭り／イベントにおける環境対策の支援
 - ・ お祭り／イベントの主催者自身による環境対策を促すための情報提供
 - ・ お祭り／イベントを通じて環境教育や啓発を行なう事業を展開するための調査や実験を実施
- 京都市内各所で年間を通じて行なわれているお祭り／イベントにて環境対策を普及させることにより、循環型社会にふさわしいお祭り／イベントの形を社会に提案し、参加市民が非日常から日常へ環境意識や行動をフィードバックすることにより、使い捨て社会に代表される現代のライフスタイルの転換を図る。

メンバー紹介

京都にて多彩な活動に取り組んでい太田航平をコーディネーターとして、えこまつりWGでは月に1回のペースで運営会議を開催しています。

えこまつりWGは有志の市民団体、企業、大学研究者などによって構成されています。具体的には、えこまつりの事業化を視野に入れて活動している地域環境デザイン研究所 ecotone、地域住民を巻き込む活動を展開しているユニバーサルユース研究会、えこまつりコンセプトカーの開発において協力関係の京都ラジオカフェ株式会社やGK京都株式会社、えこまつりを科学的見地により分析している京都府立大学や京都大学の研究者などです。

これまでの歩み

< 2002年度 >

えこまつりWG 立ち上げ

お祭り／イベントでの環境対策の実験

調査の委託を受け、平安神宮にて初詣時に環境対策を行ないました。



< 2003年度 >

お祭り／イベントでの環境対策の実践

リターナブルカップと食器洗浄機を用いて、各地のお祭り／イベントにて環境対策を行ないました。また、年度末にはえこまつり実践者による交流会を行ないました。



食器洗浄塔載車（えこまつりコンセプトカー）の開発

リターナブル容器システムの環境負荷の定量的評価

新型リターナブルカップの設計、製作

えこまつり普及マニュアルの作成



< 2004年度 >

エコまつりのサポート体制の検討

「いかに 地域において人材を養成・調達し、広げていくことができるか」をテーマに、WG 内に「エコまつりサポート体制研究会」を設置し、具体的な検討と実践を行いました。主には「エコまつりサポーター養成講座 Vol.1」と題し、3 回連続講座を市民向けに開催。それと同時に、地域のエコまつり普及・拡大にあたり、協力してくださる方々に「エコまつりサポート体制検討委員」になっていただき、現状の共有とこれからについて議論を行ってきました。実際、エコまつりのサポート体制を地域において構築するためには、コスト面での負担をいかに少なくするかが課題として残り、引き続き検討を行っていかうとしました。

事業化に向けた車両とロゴマークの開発

市民へのコスト面での負担を減らすと同時に、システムとして地域に根付かせ普及を計ることを目的として、食器洗浄機搭載車の開発に取り組みました。それと同時に全国で使用される「リユースマーク」の開発に取り組み、京都からリユースの発信を行う基盤整理を行いました。本年度4月1日には「環境対策支援便 RE-ECO」が発表されました。これはNPO 地域環境デザイン研究所 ecotone と京都ラジオカフエ(株)が主体となって、前述の車両を使って開発した環境対策支援事業で、これからの展開が注目されています。



全国の取組のネットワーク創出

3月に新潟で開催された「第2回リユース食器フォーラム」にて京都の取組を発表すると同時に、ネットワークとして、リユース食器の普及・拡大を計っていくための課題の整理と方策について議論しました。(http://www.reuse-network.jp/) 本年度は京都でのリユース食器フォーラム開催に向けて目下準備中です。

2005年度の活動計画

リターナブル(リユース)容器の使用を地域に広げるための普及啓発

- ・リターナブル(リユース)容器の使用を勧める広報宣伝
- ・リターナブル(リユース)容器を地域で推進する支援者の発掘
- ・全国各地でリターナブル(リユース)容器の使用を推進する団体が参加する活動報告会(シンポジウム)を開催し、ノウハウおよび情報の共有

環境配慮型イベント(エコまつり)普及に向けた研究実験

- ・リターナブル(リユース)容器システムがもたらす環境負荷削減の定量的評価
- ・お祭り会場でのリターナブル(リユース)容器システムがもたらす環境教育効果測定
- ・リターナブル(リユース)容器貸出を市民へ行うための体制検討および意識調査
- ・全国各地の環境配慮型イベント(エコまつり)ガイドラインの調査分析

ビジョンと主な取組

地域における自然エネルギーの普及をいかに進めていくか、をテーマに京都の特長を生かした地域協働型の自然エネルギー普及の仕組づくりを目指しています。そのために、自然エネルギー普及に取り組む地域の関係主体の情報交換、協働のための場づくりをおこなうとともに京都における自然エネルギーの普及・拡大のための仕組みの構築について検討を進めてきました。

メンバー紹介

自然エネルギーWGでは、全国レベルで地球温暖化防止に取り組む「気候ネットワーク」や、京都で市民参加型の太陽光共同発電所（おひさま発電所）の設置を行ってきた「きょうとグリーンファンド」、そして、早くから自然エネルギー事業に取り組んできた「エコテック」などのメンバーを中心に、これまで京都で自然エネルギーの普及に取り組んできた様々な団体や個人がその活動に参加しています。

また、当WGでは連携を重視しており、KES 認証事業部や京都ライオンズクラブ、その他事業者、全国の自然エネルギー普及に取り組むNGOなど、さまざまな主体と連携した取り組みを進めています。

これまでの歩み

< 2002 年度 >

「京都グリーン電力研究会」開催

地域レベルでのグリーン電力制度の可能性について検討するために、専門家を招き全4回の研究会を開催した。またその結果を報告書にまとめた。

「市民参加型おひさま発電所 設置の手引き」の制作

きょうとグリーンファンドの取り組みを中心に、おひさま発電所を地域で設置する際の手引きとなる冊子を作成した。

< 2003 年度 >

「地域協働型自然エネルギー普及制度の設計と試行」

2002年度の検討をもとに、地域協働型の仕組づくりのために事業者を対象としたアンケートならびにヒアリング調査を実施した。また、その報告会を行い、これからの社会貢献と自然エネルギーというテーマで意見交換を行った。

< 2004 年度 >

グリーン電力についての企業向け情報提供ツール「グリーン電力とは」の制作

企業を対象に自然エネルギーやグリーン電力に関する情報提供を行うため、分かり易いパンフレットを作成し、KES 認証取得企業、ISO14001 認証取得企業等に配布した。

KES 認証事業部、KES 倶楽部との連携

環境改善目標の中に「おひさま発電所の設置」という項目を盛り込むことを提案し、目標に具体性を持たせることができた。また、KES 倶楽部通信（メール通信）を通じ

た認証取得企業への情報提供を行った。

パートナーシップ型の自然エネルギー普及事業の提案

京都市との議論、対話を行い、京都市と連携した自然エネルギー普及の仕組みについて検討した。京都市との連携については今後も検討していく予定である。

商業施設等との連携

商業施設等での自然エネルギーの導入や普及のための仕組づくりをめざした検討を開始した。その一環として、大手筋商店街へのヒアリングや太陽光発電の見学などを実施した。商業施設をまきこんだ仕組みについて今後も検討していく予定である。

企業セミナー「はじめよう！環境コミュニケーション～自然エネルギーとCSR(企業の社会的貢献)～」の開催

当 WG では、京都で自然エネルギーを普及させるため、市民・NPO と企業が連携して取り組む仕組みについて検討してきた。CSR に取り組んでいる、または CSR について理解のある企業 3 社との意見交換会を行った。この意見交換会での議論をもとに、次年度は企業と合同研究会を開催し、CSR を通じた連携のあり方について検討していく予定である。



大手筋商店街の太陽光発電見学の様子



企業セミナーの様子

2005 年度の活動計画

- ・企業とのパートナーシップ形成に向けた調査、研究
- ・企業と連携した自然エネルギー普及のシステムづくり
- ・京都市への自然エネルギー普及に向けた具体的政策提案
- ・学校、幼稚園、保育園などへの省エネルギー・自然エネルギー普及活動の提案